

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
柔道整復学9							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名		実務経験		
柔道整復学科・昼間部	2年	1期	大隅 祐輝		○		
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	臨床柔道整復学			座学	1	10	
科目概要							
柔道整復理論第6版の p.313～p325の範囲を学習する。 各外傷に対する概要、受傷機序、症状、鑑別診断を学習することで、柔道整復師として外傷の判断能力を培う。 また各外傷に対する整復、固定、後療法、予後という施術の流れを学習することで、臨床知識を培う。							
目標							
<b>一般目標(GIO)</b> 本講義を学習することで達成されるべき目標		外傷への施術対応を正しく把握し行えるようになるため、 柔道整復師に必要な各骨折・脱臼・軟部組織損傷の知識を身に付ける。					
<b>到達目標(SBO)</b> 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)		1. 人体の解剖学的構造について選択肢から適切なものを選ぶ事が出来る。 2. 各骨折、脱臼、軟部組織損傷の「概要」について選択肢から適切なものを選ぶ事が出来る。 3. 各骨折、脱臼、軟部組織損傷の「受傷機序」について選択肢から適切なものを選ぶ事が出来る。 4. 各骨折、脱臼、軟部組織損傷の「症状」について選択肢から適切なものを選ぶ事が出来る。 5. 各骨折、脱臼、軟部組織損傷の「整復固定」について選択肢から適切なものを選ぶ事が出来る。 6. 各骨折、脱臼、軟部組織損傷の「後療法」について選択肢から適切なものを選ぶ事が出来る。 7. 各骨折、脱臼、軟部組織損傷の「鑑別診断」について選択肢から適切なものを選ぶ事が出来る。					
履修に必要な予備知識や技能							
柔道整復学理論の総論的知識 解剖学的知識(特に骨格・関節・筋・神経範囲)							
教科書・参考書							
柔道整復学理論編 第6版 柔道整復学実技編 第2版							
受講上の注意							
授業の妨げになる私語には注意すること。							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)	100						100
回数	授業内容				教科書	教材・持ち物	
第1回	手関節部の解剖と機能				P304-306	教科書 筆記用具	
第2回	舟状骨骨折について				P313-315	教科書 筆記用具	
第3回	三角骨骨折について 有鉤骨骨折について				P315-317	教科書 筆記用具	
第4回	豆状骨骨折について その他の手根骨骨折について 遠位橈尺関節脱臼について				P317-319	教科書 筆記用具	
第5回	月状骨脱臼について				P319-321	教科書 筆記用具	
第6回	三角線維軟骨複合体損傷について ド・ケルバン病について				P321-322	教科書 筆記用具	
第7回	手根管症候群について 尺骨神経管症候群について				P322-323	教科書 筆記用具	
第8回	キーンベック病について マーデルング変形について				P323-324	教科書 筆記用具	
第9回	手関節部の損傷について振り返り(総復習)				P313-324	教科書 筆記用具	
第10回	定期試験					筆記用具	
実務経験と本講義との関連について							
整形外科勤務、接骨院勤務で得た臨床経験を踏まえ、柔道整復師として外傷の判断を的確に行える様な知識を身に付けて貰える様に講義を進めていく。							
メールアドレス							
osumi@nihonisen.ac.jp							